

平成31年・令和元年度 晃英館中学校・山口県桜ヶ丘高等学校普通科晃英館コース学校評価書

- 1 学校教育目標  
 知・徳・体の調和がとれ、リーダーたる資質・能力を身につけた、国際社会に貢献できる人材の育成
- 2 前年度の評価・課題の概要  
 (1) 難関大学現役合格者と国公立大学の合格者の増加  
 (2) 入学者数の増加(入試改革)  
 (3) 知育・徳育・体育の調和  
 (4) 異文化理解と国際協力の精神の寛容
- 3 本年度の重点目標  
 (1) 難関大学現役合格者数と国公立大学の合格者の増加  
 (2) 入学者数の増加(中学入試改革)  
 (3) 教育目標に向けた、育てたい生徒像、身につけさせたい資質・能力を明確化する。  
 (4) 多様性の尊重

4 自己評価

評価領域	重点項目	具体的取組	評価	反省と課題
第1学年	1. 基本的な生活習慣の確立	1 挨拶や言葉遣い等の社会に出ても通用する礼儀の指導 2 服装、頭髪などの身だしなみの徹底 3 生活ノートへの記入の徹底。忘れ物ゼロ	概ね達成できた	挨拶・言葉遣いについては改善が見られたが、引き続いての指導が必要。 服装、頭髪は問題なし。 男子の忘れ物が多い。
	2. 学習習慣の確立	1 授業態度やノートの取り方における指導 2 予習・復習を含むPDCAサイクルを日々の学習の中に取り入れることにより、効率の良い勉強を行う。 3 提出物の期限前提出の徹底	概ね達成できた	授業態度や学習に向かう姿勢は積極的であり、大きな問題はない。 提出物の期限厳守は指導の必要あり。
	3. 円滑な集団行動の確立	1 学校行事を通して、集団での動き方を身につける 2 道徳や総合の時間を使い、集団での協力性や社会性、積極性を学ばせる。	一部達成できた	集団での動き方は身についた。 集団での社会性や協力性ができていない。特に男子における人間関係は注意が必要。
第2学年	1. 基礎的な生活習慣の再徹底	1 礼儀、言葉遣い、授業への取り組みなど、学生として基本となる要素の指導 2 期限や時間の厳守、モノの管理など社会に出て必要となる要素の指導	達成できなかった	全体的に精神的な幼さがみられる。基本的な生活習慣の確立ももう一つである。
	2. 基礎的な学習習慣の再徹底	1 個人の学習状況に応じて、家庭学習の質と量に関する指導を行う。 2 模擬試験等を活用した苦手分野の発見・克服等を行う	一部達成できた	勉強時間は取れているが、集中して成果を出せているかは疑問。スタディサプリの利用などで効果を上げる。
	3. 積極性・自発性・協調性の育成	1 相手の事を考えて行動できるよう道徳等で指導 2 他人との付き合い方などについて指導する。 3 普段の清掃や委員会活動や勉強面において、自らの意思で取り組むことができるように指導する。	概ね達成できた	与えられたことは責任をもって行った。積極性や周囲の状況や場面に応じた行動をとることが求められる。
	4. 進路意識の形成・育成	1 職場体験を通じて、各職業の内容・やりがいなどを理解し、さまざまな職業への関心を高める。 2 立志式に向けての準備を通して、自分の進路等を考えさせ、なすべきことを検討させる。	概ね達成できた	立志式準備、職場体験を通して自分の進路を考えることはできた。
第3学年	1. 中学課程最高学年としての意識	中学1,2年生の手本となる品格ある行動を率先してとれるよう促す。具体的には、服装・挨拶・時間厳守・授業態度・放課後の時間の過ごし方等	概ね達成できた	挨拶以外は下級生の手本となる行動はとれていた。
	2. 学習習慣の再定着・改善	理系科目中心に本格的に高校課程に入るにあたり、必要相応量の学習量が身につくよう促す。空き時間や放課後の時間を上手に使い、確実に日々の復習や演習をこなしていくよう促す。	達成できなかった	改善の見られた生徒は週末の時間を有効に使い結果に結びついている。改善の見られない生徒との差が出始めているので、指導が必要。
	3. 集団生活の中での人間関係の再構築	非があることには理由如何にかかわらず悪いことを再認識させる。人の好き嫌いかかわらず相手に敬意をもって接する。相手の事をよく考え、協調性をもって行動する。挨拶の徹底。	達成できた	男女間の会話や連携が多くなり、クラスの雰囲気や格段に良くなった。
	4. 高校課程への事前準備	1 中学課程の総まとめ 2 高校課程進級後の文理選択 3 文理選択による進路の明確化	概ね達成できた	現実的な考え方や選択ができるようになったが、現状の学力や希望と文理選択が一致せず悩みはじめた生徒への指導が必要。
第4学年	1. 学習習慣の改善	1 授業での集中力、積極性の向上 2 空き時間の使い方、休日の予習復習 3 確実に毎日行える勉強時間の確保	概ね達成できた	クラスの雰囲気は受験への取り組みがみられ積極性は向上したが、一部の生徒がついていけない。
	2. 生活習慣の改善	1 授業と休み時間の切り替え 2 休日の過ごし方、安定したリズムの構築 3 落ち着いた言動	概ね達成できた	落ち着いた行動ができるようになった。家庭での勉強時間の確保が大切。
	3. 大学進学に向けての分離選択	1 職業を見据えた大学進学 2 文理選択による進路の明確化	概ね達成できた	さまざまな場面で自主的に行動する姿が見られた。個人差はあるものの学習面でも自らの課題に紳士に取り組む生徒が増えた。
	4. 自主的・主体的な行動の育成	1 自ら率先して行動に移す 2 自らの意思や判断で責任をもって行動に移す	一部達成できた	機会あるごとに情報提供に努めたが、計画的に準備させるという段階までは到達できなかった。
第5学年	1. 現状認識(志望大学が求める学力と自分の学力の差を認める)	志望校決定(なぜ、その大学なのか。なぜ、その学部に行きたいのか。なぜ、その仕事に就きたいのか)のためのレポート作成	概ね達成できた	一部生徒を除き、受験に向けた取り組みができるようになった。
	2. 学力の伸長	1 レポートを基に面談により、その生徒にあった学力差をなくすための方策の決定 2 家庭学習のチェック。課題の完全提出。 3 声かけをし、学習や生活についてのアドバイス	概ね達成できた	課題の完全提出、家庭学習のチェックが不完全。
	3. 発表力と発表内容への理解の伸長	1 朝礼や終礼を利用してスピーチ(個人対集団)実施 2 そのスピーチの要点の記述とアドバイスをさせる	達成できなかった	計画段階で無理があった。

第6学年	1. 最上級生として自覚を持ち、品格ある行動をとること 2. 志望校への現役合格	1 最上級生として責任ある行動を心がけるように指導する。また、受験に向けて時間の有効活用を心がけさせるように指導する。 受験に挑む学力・体力・精神力を育成すること。個々の学力レベルに応じた適切な個別指導を行う。自ら志望校に関する情報を積極的に集めさせ、それらを基に建設的な戦略を練らせ、適切に受験校に出願させる。保護者との連携を密に。	概ね達成できた	生活面・学習面をはじめ、あらゆる場面で成長を実感した。
			概ね達成できた	本人の希望進路と学力の差があるが、保護者が受験を容認したり、すべりどめ校を受験させないことなどで、数名現役合格できなかった。
教務部	1. 見英館としての教育活動の深化	各学年にあった指導を徹底し、高校3年生は希望の進路に進めるように、その他の学年は次の学年に進級できるようにする。そのために、教師同士の連携を高め、学校としての指導を教師一丸となって行う。	不十分だった	全国一斉休校で学年末試験が実施されなかったことにより、特例で救済措置が取られたが、それに助けられた生徒がいる。担任・強化担当の指導が必要。
	2. 新入試に向けた新たな教育課程の検討	各部と協力し、新しい教育課程の検討を行う。また、探究活動のための、総合探究・LHRの扱いを検討する。	不十分だった	探究の、検討ができなかった。教材も含めてできることから取り組む必要がある。
	3. 成績処理システムの改訂	新しい教育課程に向けて、成績処理システムの改訂を行う。それに合わせ、通知表、指導要録等の各種様式の見直しを行う	不十分だった	次年度から運用が可能になった。
	4. 各種調査や報告、申請や教科書・副教材などの注文を適切に行う	締め切りなどを管理し、入力内容にミスが無いよう適切に確認を行い、事務処理を行う。	概ね達成できた	
総務部	1. 学校関係行事の適切な運	1 学校関係行事の事前準備の徹底、適切な運営を行う。 2 行事ごとの改善 3 各部、各先生方、生徒間での連携 4 行事ごとへの積極的な取組	概ね達成できた	行事運営は問題なくできたが、連携や確認不足によるミスがみられた。複数の者で作業を行う必要がある。
	2. パソコンデータ管理の徹底	1 データの保存、管理、バックアップ 2 ホームページでの行事内容の更新	概ね達成できた	データ管理は徹底。ホームページ更新者が必要。
	3. 清掃・美化の徹底	1 清掃指導を徹底 2 清掃用具の管理(購入) 3 清掃時の生徒への適切な指導	不十分だった	清掃用具の管理は問題なし。通常清掃でやり残しがある。半休教員の担当場所も含み、清掃指導の見直しが必要。
進路指導部	1. 主体的な進路探究への準備(PDCAサイクルを意識した活動を促進する)(主に1-3年次)	LHRにおいて大学・学部・学科や職業調べなどを通して進路に対する興味を深め、目的意識を高める。さらに、実際に職場体験を経験し、また大学を訪問しキャンパスの雰囲気を感じることで、高校課程において主体的な進路探究ができるように準備しておく。すべての活動においてPDCAサイクルを意識させ、確立に向けての準備を。	概ね達成できた	PDCAサイクルをまわしていくことは、スタディサプリを利用することで一定の効果があった。次年度は「キャリア・パスポート」をいかに効率よく活用させるかが重要。
	2. 新入試の情報収集と進路における主体的活動の実践(4年次)	大学受験前に自分がどういう学力レベルに到達したいのかよく考え、その実現のために高1・高2の時点において何をすべきかをよく考えて具体的な計画を立て、そして実践していくよう指導する。いわゆるPDCAサイクルを回し主体的な活動をする時期であることを認識させる。ボランティア活動などが自分が業績として残したいものは計画的に。	達成できなかった	PDCAサイクルの確立や主体的活動に関しては、生徒間の出来不出来が顕著である。できていない生徒への指導が必要である。
	3. 希望進路実現に向けた効果的な受験指導を提案する(主に5、6年次)	模擬試験の結果を分析し、各分掌・各教科との連携を強化しながら、効果的な対策を考え、職員会議等を活用して全教員に提案していく。推薦入試に関しては全教員で一丸となって推薦希望生徒を支える。	概ね達成できた	新入試ではさらに教員間の協力と情報共有が大切になる。
	4. 新入試・新学習指導要領(高校)の情報収集と対応並びに6年間の進路計画の見直し	新入試と新学習指導要領に素早く対応すべく全教員で情報収集と分析をしていく。そこで得た情報を基に議論を重ねながら新入試と新学習指導要領に適した6年間の進路カリキュラムを創り直していく。中学課程は「PDCAサイクルの確立」を目標とし、そして高校課程では「アクティブ・ラーナー」を育てることを最終的な大目標としていく。	概ね達成できた	情報収集はできた。学校教育目標が明確に決定できた。それに基づく6か年計画の作成を早急に行う。
生徒指導部	1. いじめなどの問題行動をゼロにする	1 生徒の状況確認やアンケートを活用し、担任と連携を密にして迅速な対応を行い、問題解決を図る。 2 ネットパトロールを活用し、ネットいじめ対策を。 3 必要に応じて携帯電話の講習会などを実施。	概ね達成できた	アンケート等の活用により、減少はしてきた。他の部署との連携などが必要。
	2. 生徒会の組織・運営	1 生徒会と委員会が活動するにあたり、自主的かつ主体的に運営できるように指導を行う。 2 委員会の業務、生徒会組織の見直し、再編を検討する。	概ね達成できた	委員会に担当教員を振り分けたことで各委員会での活動が効率化。生徒会規約がほぼ完成。委員会や生徒会の見直しも進めていく。
	3. 部活動への積極的参加	1 部活動への加入者の増加と定着を図る。	達成できた	部活動の創設・加入者は増加したが、定着は疑問。
	4. 自転車等による交通事故をゼロにする	1 交通委員を通じて、自転車の施設・交通安全の啓蒙等を行う。 2 交通安全教等を活用して、生徒の交通安全に対する意識を高めるとともに、マナーの向上を図る。	一部達成できなかった	交通事故が数件発生。LHRなどを通じてマナー啓蒙が必要。自転車の施設は委員の努力で定着してきた。
	5. 精神面・行動面での成長を図る	1 挨拶の励行 2 正しい言葉遣いや行動、服装・頭髮の指導 2 ボランティア活動、花の栽培等を通して心の育成を図る	達成できなかった	精神面での幼さがみられる。挨拶などの基本的な部分は今後も指導が必要。
入試広報部	1. 入学者数の増加(学校見学会100名、入試問題学習会・説明会50名、A日程受験者数4.0人以上の実現)	1 学校説明会参加者増加につながるアピール。 2 説明会後の口コミ。 3 入試説明会参加者増加につながるアピール。 4 普段からの取り組みをどうアピールするか。 1 開催内容の反省と次回に向けての再検討	達成できなかった	学校説明会で集客できないため受験者増は見込めない。時間はかかるが一つつ積み上げていく必要がある。
	2. 学校見学会・入試説明会・入試問題学習会の円滑な運営	2 在学が関わる機械の充実 3 学校見学会・入試説明会への在校生の参加	概ね達成できた	集客のため入試説明会とともに理科実験教室などを実施する。
	3 広報活動の充実	1 年間を通して使用可能な効果的な広告やチラシの作成 2 徳山郵便局DSの利用 3 広報ツール活用の再検討	達成できた	徳山郵便局のDSは周南市役所のDSへとつながった。広告に関しては予算の中で限りがある。
	4 桜ヶ丘との連携	予算を含め、効率よく行えるところは協力して行う	達成できなかった	事前の連絡・連携がなし

図書委員会	1. 資料室の管理・運営	1 図書委員会を中心に資料室の管理・運営 2 図書貸し出し等を行うことができる環境を整備する。	概ね達成できた	図書委員を中心にしっかりと運営がなされた。図書の整理がまだ途中のため、今後も継続して実施する
	2. 学校図書の選定・購入拡大	1 総合学習に必要な資料となる書籍を中心として、図書の購入を行う 2 アンケートを通じて、図書の購入と充実を図る。	概ね達成できた	総合学習で使用できる資料の拡充を行ったが、今後も継続する必要がある。 高3の小論文向けの教材も必要
	3. 朝読書に関する新たな取り組みの検討	1 ライトノベルや小説などの特定分野だけでなく、新書や自己啓発本などに触れる機会も 2 図書委員会の活動を通じた啓発活動を実施	一部達成できた	中2で新聞記事に触れる機会を設けるなど新しい取り組みをしている。
国際交流委員会	1. 有意義な海外研修の実施	1 事前指導、事後指導の徹底 2 保護者、代理店との密な連携 3 主体性、積極性、国際社会の一員としての自覚の育成	達成できた	大学生と一緒にサイエンス・プログラムに取り組んだが、とてもよいプログラムだった。ただし費用の面で少し高い。
	2. 下級生へ海外研修の活動を周知する	1 充実した報告発表会の企画・実施	達成できた	

#### 5 学校関係者評価

- (1) 学習指導については、概ね満足している。ただし、英語の常勤が見つからない。非常勤講師が増え、土曜をはじめとして授業が組みづらくなっている。
- (2) 年間や学期ごとの行事予定を早く知りたいという要望があり、ホームページに掲載した。「ホームページ」「安心メール」の両方で発信。
- (3) 個別指導の充実をさらに行ってほしい。放課後の質問や個別指導に対応してほしい。
- (4) 生徒指導について、外部からの情報が寄せられることがあった。人間関係における問題が生じた時の対応や方法について少し不満の声があった。

#### 6 学校評価総括

- (1) 企画委員会を中心に、「アドミッションポリシー」「育てたい生徒像(資質・能力)」を作成した。
- (2) 個別指導や面接、小論文指導など多くの人間が関わったことで、大阪大・九州大・一橋大や難関私立大学への合格も果たした。
- (3) 働き方改革の導入による学校業務への影響が大きかった。(土曜勤務の平日半日休暇の取得の徹底など)
- (4) 入学者数については、A日程の合格者はほぼ全員入学したが、受験者数の減少に歯止めがかからない。
- (5) 常勤教員が少なく、他の部署も兼ねているために一人の教員の仕事量の負担が多い。また、毎年教員の確保に苦労する。教員が定着しないことへの保護者の不安
- (6) 生徒を主体にした学校行事を实践でき、生徒会も積極的に活動し、安全を考えた運営などで改善が見られた。

#### 7 次年度への改善項目

- (1) 入学者数増加のための効果的な募集活動の検討・入試改革(検定の扱い・高得点2教科など)
- (2) 個別指導・新規オンライン英会話・検定対策や授業形態の見直し。生徒一人一人に寄り添った指導
- (3) 常勤教員を増やし、生徒の個別指導に対応。また、校務の負担を軽減する。
- (4) 新入試や新学習指導要領、学校の教育目標に対応したカリキュラムの見直し、教科書選定